

① 申請者	広島県尾道市	② タイプ	地域型 シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
【尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市】			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
尾道三山と対岸の島に囲まれた尾道 は、町の中心を通る「海の川」とも言うべき尾道水道の恵みによって、中世の開港以来、瀬戸内随一の良港として繁栄し、人・もの・財が集積した。 その結果、尾道三山と尾道水道の間の限られた生活空間に多くの寺社や庭園、住宅 が造られ、それらを結ぶ入り組んだ路地・坂道とともに中世から近代の趣を今に残す箱庭的都市が生み出された。 迷路に迷い込んだかのような路地や、坂道を抜けた先に突如として広がる風景は、限られた空間ながら実に様々な顔を見せ、今も昔も多くの人を惹きつけてやまない。			

広島県

尾道市

(様式1-2)

尾道旧市街地

〈凡例〉

- 中世
- 近世
- 近代
- 街道
- 坂道・路地

②1 尾道遺跡

絹本著色普賢延命像

阿弥陀三尊像(磨崖仏)

みはらし亭

旧福井邸

旧三井住友銀行尾道支店

旧尾道商業会議所
(尾道商業会議所記念館)

ベニヤ祭

天寧寺塔婆

西國寺金堂・三重塔

西國寺仁王門

常称寺本堂・観音堂
大門・鐘楼

① 坂道と路地の景観

③ 西郷寺本堂・山門

①7 吉和太鼓おどり

①6 爽籟軒庭園

浄土寺本堂
及び境内地、多宝塔など

竹村家

①3 旧尾道銀行本店
(おのみち歴史博物館)

西山本館

①9 住吉祭

ストーリー

船に乗って尾道水道を進むと、川を遡っているような感覚になるだろう。尾道水道は、瀬戸内海に面した港町尾道と対岸の向島に挟まれた幅狭の水道で、いわば「海の川」である。利便性の高い「海の川」は重要な交通路として多くの商人に重宝され、尾道は、中世には瀬戸内海の人・もの・財が集積する港町として発展した。

この尾道水道と尾道三山（大宝山・摩尼山・瑠璃山）に縁どられた狭小な空間には、町の発展とともに多くの寺社が建てられた。寺社が増えるに従い、その周辺に更に家々が密集して建ち並び、現在の水道間際まで家々がせまる風景が作り出されることとなった。

船上から尾道を眺めれば、尾道三山と街の景色が一望できる。それぞれの山腹に中世の塔がそびえたち、その眼下には寺社と家々がひしめき合っ山の斜面に建ち並んでいて、その間を縫うように路地と坂道が続いている景色である。

尾道の住民は、尾道水道とともに生き、暮らしてきた。



尾道水道と斜面地の景観



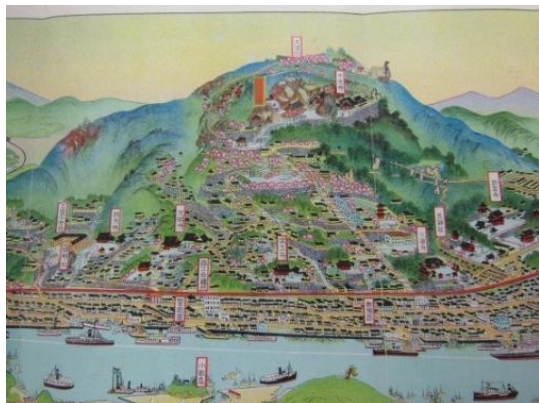
尾道水道と斜面地の景観

「この所のかたちは北にならびて、あさぢ深く岩ほこりしける山あり。ふもとにそひて家々所せくならびつつ、あみほすほどの庭だにすくなし。西よりひんがしに入うみとをく見えて、朝夕しほのみちひもいとはやりかなり。風のきをひに従ひて、行くる舟のほかげもいとおもしろく、遥なるみちのくつくし路のふねも多くとゆたゐるに、・・(略)」

この名文は、南北朝時代の著名な武将であり歌人の今川了俊^{いまがわりようしゅん}が書いた紀行文『道ゆきぶり』の一節である。中世の尾道の様子を最も美しく表した文章で、尾道三山と尾道水道に囲まれた港町に網を干すほどの庭も少ないほど、家々が密集しており、尾道水道は潮の流れも速く、風の吹くまま行き交う船の帆影も面白く、遠く東北や九州への船も寄港しているなど、当時から既に自然の良港として、瀬戸内随一の港町の発展の様子がうかがえる。

栈橋で船から降りると、太鼓の音やにぎやかな町の声が聞こえてくる。町中では四季折々の祭礼や伝統行事が行われており、細い路地でひしめき合う住民の中を、神輿などが練り歩き、町全体が活気にあふれている。

栈橋から斜面地に足を向けると、山麓の約2kmの範囲に今も中世から続く25の寺院が並び立っている。これらの寺社や住宅をつなぐ路地や坂道をたどれば、目の前に突然、寺院の大きな屋根や庭園をもつ住宅が現れたりする。また、斜面地には、生活に必要な井戸が点在し、その傾斜を利用して二階井戸が生まれ、坂道の上下の住宅で共有して井戸が使える仕組みができるなど、路地と坂道に点在する井戸端が、住民が集まる立体的な空間となっている。



尾道市観光案内（明治時代）



尾道市全景（明治時代）

こうした路地や坂道が尾道の生活基盤となっており、寺社や住宅、庭園そして港、尾道水道をつなげ、人々をつなげている。その路地や坂道を作り出している石段、石畳、石垣などは全て岩山である尾道三山から切り出された石でできていて、尾道は狭小な空間に展開する巨大な石造物といえる。路地や坂道を歩けば、こうした石垣や石段、井戸、さらには、寺社の石塔や狛犬、燈籠などの美しい石造物や巨岩に出会うことができる。斜面地では、不思議と祭りの喧騒もなく、静かで穏やかな時間が流れている。また、ふと振り返ると、坂道から対岸の向島や尾道水道、そして尾道の町並み全体を見渡すことができ、寺社や住宅と一体化した石造物に囲まれ、山と海と地域の一体的な景観の中にいる感覚を体験することができる。

尾道に住んだ志賀直哉は小説『暗夜行路』で、対岸の向島から石切場の人々の唄や作業の音が聞こえてきたり、千光寺の鐘の音がすぐ反響することなど、箱庭的要素を描き出した。現在でも対岸の造船所の音や尾道水道を通る船の音などが町中で聞こえてくる。

斜面地から下ると、境内を線路や道路で分断された寺社を抜け、密集した家々とそれをつなぐ細い路地が見える。路地に一步入ると、その先には神社や近代的な建物、住宅を改装したお洒落な店舗など、尾道が歩んできた様々な時代の文化を感じることができる。

このように、尾道では路地と坂道が複雑に入り組み、さらに人を迷わせ、迷路に迷い込んでしまったような感覚を体験できる。路地と坂道を抜けた先には、突如として、美しい尾道水道や寺社建築が姿をみせ、別世界に入り込んでしまったような空間が広がる。

尾道は、こうした限られた空間ながら実に様々な顔を見せ、今も昔も多くの人を惹きつけてやまない。



小路から見る尾道水道



ベッチャー祭



斜面地の坂道

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	坂道と路地の景観	未指定	斜面地と尾道水道沿いに縦横にめぐる急な坂道と細い路地は、寺社や近代化遺産などをつなぐ道であり、山と海と地域の一体的な景観を生み出している。	
②	浄土寺本堂及び境内地、多宝塔など	国 宝	尾道水道から港に入ると真っ先に見える中世寺院。本堂を始めとして中世の伽藍が残り、浄土寺山と一体となって箱庭の一部を形成する。	
③	西郷寺本堂・山門	国重文	本堂・山門は、背後の浄土寺山の稜線と美しい調和がとられ、寺院と山がセットで成立している。その隣には昭和初期の小学校建築物があり、参道でつながっている。	
④	西國寺金堂・三重塔	国重文	参道からの境内が最も広大な寺院。参道が市民の生活道であり、寺院と山と周囲の町並みが一体化している。坂道の途中に表れる中世寺院。	
⑤	西國寺仁王門	県重文	参道の途中にある仁王門。坂道からも見える大草鞋は、市民の信仰によるもの。	
⑥	常称寺本堂・観音堂・大門・鐘楼	国重文	鉄道と国道に境内を分断された中世寺院。路地を抜けると民家の間に突然大門が現れる。	
⑦	天寧寺塔婆	国重文	周辺の近代建造物の中で、そびえたつ中世の塔。坂道と路地を歩くと眼前に広がる重厚な塔は、斜面地を代表する景観を形成している。	
⑧	阿弥陀三尊像（磨崖仏）	市重文	千光寺の参道を上がると見える磨崖仏。密教の修行場として、山頂の岩肌には多くの彫刻が残り、かつての石造文化の名残を残す。	
⑨	旧福井邸	国登録	斜面地に建つ大正時代の代表的な邸宅。坂道と尾道水道の絶景を望めるこの場所では、近代の繁栄を思い起こすことができる。	
⑩	みはらし亭	国登録	斜面地に建つ大正時代の旅館。坂道と尾道水道の絶景を望めるこの場所では、近代の繁栄を思い起こすことができる。	
⑪	西山本館	国登録	大正時代建築の旅館。港、造船所関係者が多く宿泊し、外国人宿泊者用の洋室も残る。港周辺の土蔵とともに、港町の繁栄を思い起こせる。	

⑫	竹村家	国登録	大正時代建築の旅館。海辺に建つ景観から、映画『東京物語』ゆかりの地として知られる。	
⑬	旧尾道銀行本店 (おのみち歴史博物館)	市重文	大正時代建築の銀行。商都尾道の面影を残す建物で、港の中心にあった銀行浜に位置する。	
⑭	旧尾道商業会議所 (尾道商業会議所記念館)	市重文	尾道には全国で 30 番目に商業会議所が設置され、この建物は、大正時代の建築。商都尾道の中心であった。	
⑮	絹本著色普賢延命像 けんぽんちやくしよくふげんえんみょうぞう	国 宝	持光寺が天台宗寺院の際に製作寄進された中世密教寺院の宝物。坂道の始まりの寺であり、中世の繁栄を物語る資料である。	
⑯	爽籟軒庭園 そうらいけんでいえん	市名勝	江戸時代の豪商、橋本家の別荘。まちの中でさらに箱庭的な庭園である。尾道水道からは、川でつながっていた。	
⑰	吉和太鼓おどり	県無形民俗	足利尊氏の戦勝祝いに漁師たちが踊ったことが起源とされ、中世からの港町を横断し浄土寺までの町中を歩き、浄土寺境内で踊りが奉納される。	
⑱	ベッチャー祭	市無形民俗	江戸時代に港の疫病を退散する目的での神輿巡行が起源とされ、三匹の鬼が寺社や住宅を結ぶ路地・坂道を巡る奇祭である。	
⑲	住吉祭	未指定	江戸時代に港町の商人たちにより始められ、尾道水道という港町の象徴的な空間の中であがる「東の両国、西の住吉」と呼ばれた花火まつり。	
⑳	旧三井住友銀行尾道支店	市重文 (建造物)	尾道水道沿いの住友家と港町尾道をつなぐゆかりの地に建つ銀行。商都尾道の面影を残す建物で、近代の繁栄を物語っている。	
㉑	尾道遺跡及び出土遺物	未指定 (史跡及び考古資料)	中世～現代までの箱庭的都市尾道の歴史が重層する港湾都市遺跡。建物跡や護岸設備、寺院跡が確認され、陶磁器や木簡など多彩な遺物が出土している。	

(※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること (例：国史跡、国重文 (工芸品)、県史跡、県有形、市無形等)。

(※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること (単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること (複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

① 坂道と路地の景観



④ 西國寺金堂、三重塔



② 浄土寺本堂及び境内地、多宝塔など



⑤ 西國寺仁王門



③ 西郷寺本堂・山門



⑥ 常称寺本堂・観音堂・大門・鐘楼



⑦ 天寧寺塔婆



⑪ 西山本館



⑧ 阿弥陀三尊像（磨崖仏）



⑫ 竹村家



⑨ 旧福井邸



⑬ 旧尾道銀行本店（おのみち歴史博物館）



⑩ みはらし亭



⑭ 旧尾道商業会議所（尾道商業会議所記念館）



⑰ 吉和太鼓おどり



⑮ 絹本著色普賢延命像



⑱ ベッチャー祭



⑯ 爽籟軒庭園



⑰ 住吉祭



⑳ 旧三井住友銀行尾道支店



㉑ 尾道遺跡及び出土遺物



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
14	尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市

(1) 将来像 (ビジョン)

1 日本遺産認定前後の尾道市の歴史まちづくり

平安時代末の開港以来、850 年余の受け継がれてきた歴史をもつ尾道市には、市内各地域に様々な種類の文化財が存在し、語り継がれ、残されてきた。国・県・市指定文化財は 371 件、登録文化財は 39 件と近隣の地域にはみられないほど、数多くの文化財を抱える文化財都市ともいえる町である。

こうした文化財を保存活用するため、平成 23 年には「尾道市歴史文化基本構想」「尾道市文化財保存活用計画」を策定し、また平成 23 年度に尾道市歴史的風致維持向上計画を策定し、平成 24 年に国の認可を受けた。認可後は、歴史的建造物保存修理や空き家再生、危険建物の撤去、沿道修景などを補助し、歴史的建造物周辺の道路美装化や寺院の多国語音声案内の整備等を実施している。そうした歴史まちづくりと並行して平成 27～30 年度に 3 つの日本遺産の認定を受け、まちづくりを進めてきた歴史的町並みや文化財の情報発信、観光事業化等関係機関と連携して事業を進めている。日本遺産認定後は、インバウンドを含む来訪者が増加し、地域住民も郷土に愛着がわき各地域の歴史文化活動が進むなど、少しずつではあるが、来訪者、そして住民にも日本遺産が浸透してきている。また、観光協会や DMO、民間団体、企業との連携事業も着実に進んでいる。そして、令和 3 年度には、尾道市歴史的風致維持向上計画第 2 期が認可され、現在も歴史まちづくりを進めている。

このような歴史まちづくりと日本遺産の融合した形での事業展開を行っている中でも、若年層の流出等による人口減少と少子高齢化、経済・雇用環境の変化、観光形態の多様化など、直面している課題は数多くあり、それらの課題解決、そして尾道市総合計画に掲げる都市像「元気あふれ人がつながり安心して暮らせる～誇れるまち『尾道』」の実現に向けて、今後 6 年間、新たな事業展開とともに関係各所と連携しながら事業を進めていく。

2 中長期的に目指す将来像

令和 4～8 年度の尾道市総合計画では、今後のまちづくりの考え方を示すキャッチフレーズ「高める『尾道オリジナル』」とし、本市の持つ 3 つの魅力「多様で豊富な人材」「歴史と文化に育まれた資源」「交流を支える広域拠点性」をさらに高めていくことで「尾道オリジナル」なまちづくりを展開することとしている。そして、目指すべき将来像（都市像）として、「元気あふれ人がつながり安心して暮らせる～誇れるまち『尾道』」と設定し、都市ブランド力を高め、市民が誇れるまちの実現を目指している。その中で、日本遺産は、「観光消費が増えている」「歴史・文化・芸術が継承され活かされている」の 2 つの政策目標の前提であり、かつ、それを推進する事業項目として提示されており、歴史文化を継承しつつ観光振興に活用する重要な要素となっている。その目標に着実に近づくため、本協議会としても以下の方針を掲げ、かつ具体的な事業展開を進めていく。

目標達成のための基本方針

美しく尾道らしい景観の創造、交流人口の増加など地域活性化の促進、市民が誇りと愛着を持てる親しみのあるまちの創出を柱とし、尾道水道を中心とした尾道独特の街並み、歴史・文化的魅力に溢れた「日本遺産」という資源を活用しながら、①新たな魅力の創出をめざし、文化芸術創造都市尾道としてのブランド力を高め、来訪者が満足できる、また訪れたい町②小さな都市でありながら他にはない尾道オリジナルの魅力的な価値を持つ、地域住民等と協働した事業を進め、地域住民が尾道に誇りをもち、継続して居住したい町③「世界の尾道」と言われるべく、広域的、国際的な交流を更に推進し、日本遺産での事業連携により、民間事業者の収益向上が期待できる町を目指す。

目標達成のための事業展開

- ① 「日本遺産のまち尾道」箱庭的都市のブランド力を国内外に向けて情報発信する。
- ② 国宝・重要文化財等の保存活用を図り、歴史・文化に対する理解と魅力を向上させる。
- ③ 日本遺産構成文化財等の調査研究の推進
- ④ 地域に蓄積した文化財や優れた景観、多様な交流資源などを活かした観光振興
- ⑤ 地域の文化財や民俗芸能等の継承・育成を図り、地域のコミュニティの維持・向上を推進する。
- ⑥ 付加価値の高い観光戦略を実施し、人や物の交流を活性化させる。
- ⑦ 訪日外国人が周遊しやすい環境を整備する。

これらの事業を民間事業者等と連携し、かつ持続的・継続的に事業展開を進め、上記の目標達成に向けて、「チーム尾道」一丸となって取り組んでいきたい。

（２）地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－Ａ：千光寺山ロープウェイの利用者数（単位：人）

年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	212,180	483,034	集計中			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	483,000	483,000	483,000	483,000	483,000	483,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	アフターコロナとなり利用者数が増加した令和４年度数値を維持する。					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－Ｂ：日本遺産尾道市 HP ユーザー（年間閲覧者）数（単位：人）

年度	実績
----	----

	2021	2022	2023			
数値	5, 257	6, 900	集計中			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	7, 100	7, 200	7, 300	7, 400	7, 500	7, 600
指標・目標値の設定の 考え方及び把握方法	2023 年度を 7, 000 人と推定し、毎年 100 人増加と想定。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－A：尾道市に愛着を感じる住民の割合						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	81. 8	未集計	未集計			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	85	85	86	86	87	87
指標・目標値の設定の 考え方及び把握方法	2 年で 1 % の伸び（尾道市総合計画 R6 目標 85. 0%） 尾道市市民満足度調査（3 年に 1 回測定）					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：一人当たり観光消費額（単位：円）						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	4, 307	4, 514	集計中			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	4, 500	4, 545	4, 590	4, 635	4, 680	4, 725
指標・目標値の設定の 考え方及び把握方法	毎年 45 円の増加（尾道市総合計画 R6 目標 4, 500 円） 尾道市観光統計調査					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：ふるさと納税から日本遺産に充当される額（単位：千円）						
年度	実績					

	2021	2022	2023			
数値	3,600	2,900	3,800			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600
指標・目標値の設定の 考え方及び把握方法	令和3年度実績額を維持する。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：尾道市観光客入込数（単位：人）						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	3,575,568	4,373,823	集計中			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	4,460,000	4,601,000	4,742,000	4,883,000	5,024,000	5,165,000
指標・目標値の設定の 考え方及び把握方法	毎年141千人の増加（前回（3年前）の地域活性化計画と同じ設定）					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－B：尾道市外国人観光客数（単位：人）						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	未集計	未集計	集計中			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	250,000	287,000	324,000	341,000	341,000	341,000
指標・目標値の設定の 考え方及び把握方法	毎年37.7千人の増加（尾道市総合計画 R8 目標341千人） 最新値 R2 数値99,686人を基準					

(3) 地域活性化のための取組の概要

1 「日本遺産のまち尾道」箱庭的都市のブランド力を国内外に向けて情報発信する。

これまでの観光客増加、魅力度ランキング向上等の成果を踏まえ、「日本遺産のまち尾道」の坂道・尾道水道等の景観や歴史、文化の魅力を、観光マーケティングを踏まえたターゲット別戦略に基づき、しまなみ DMO 形成推進事業、外国人旅行者誘客事業、SNS 等を活用した PR 等効果的なプロモーション活動の展開によってさらに情報発信する。

2 国宝・重要文化財等の保存活用を図り、歴史・文化に対する理解と魅力を向上させる。

地域住民にとって、日本遺産や文化財がもっと身近になるよう、尾道の特徴である様々な時代の文化財が一か所に凝縮している魅力を最大限に活用し、学校や生涯教育とも積極的に連携を図りながら、子どもから大人まで幅広い年代を対象とした尾道の歴史や日本遺産の講座や講演会、文化財めぐり等を開催する。

3 日本遺産構成文化財等の調査研究の推進

尾道市の歴史は古く、まだ知られていない文化財等が多く埋もれているので、構成文化財や歴史的風致の調査・研究を実施し、登録文化財への登録を行うなど、地域の魅力の更なる向上を図る。

4 地域に蓄積した文化財や優れた景観、多様な交流資源などを活かした観光振興を行う。

現在の尾道の観光資源といえるラーメン、坂道、猫等だけでなく、歴史ある多様な文化財の地域資源に磨きをかけ、その周辺環境（道路の美装化、夜間照明等）の美化に努め、様々な事業の充実や交流促進を図る。また、歴史的に価値ある建造物を保存、改修し、尾道市の歴史・文化・芸術が堪能できる交流施設として整備する。

令和 6 年度より日本遺産尾道市公式 HP で掲載している周遊ルートを活用し、日本遺産の魅力をガイドできる文化遺産パートナーの養成に努め、滞在周遊型の旅行商品の企画等に取り組む。

5 地域の文化財や民俗芸能等の継承・育成を図り、地域のコミュニティの維持・向上を推進する。

地域の文化財や民俗芸能、観光ガイド等の担い手不足を解決するため、地域における歴史的建造物の保存・活用や民俗芸能の担い手の確保・育成等を進めることにより、地域活性化及び郷土愛を醸成し、世代間を超えた地域コミュニティの向上を図る。

6 付加価値の高い観光戦略を実施し、人や物の交流を活性化させる。

山陽自動車道、中国やまなみ街道、瀬戸内しまなみ海道が結束する交通の要衝である尾道の利点を生かし、さらに海路、鉄路を戦略的に活用することにより、観光振興及び人や物の交流を促進し、来訪者の満足度の向上を図り、誘客につなげる。

7 訪日外国人が周遊しやすい環境を整備する。

外国人観光客の利便性を向上させるため、観光ガイドの育成・確保、無料 Wi-Fi の設置や駅や港、観光地における多言語対応など受け入れ環境の整備に取り組む。また、キャッシュレス化などを進めるとともに、二次交通の手段の確保など受け入れ環境の充実を図る。

(4) 実施体制

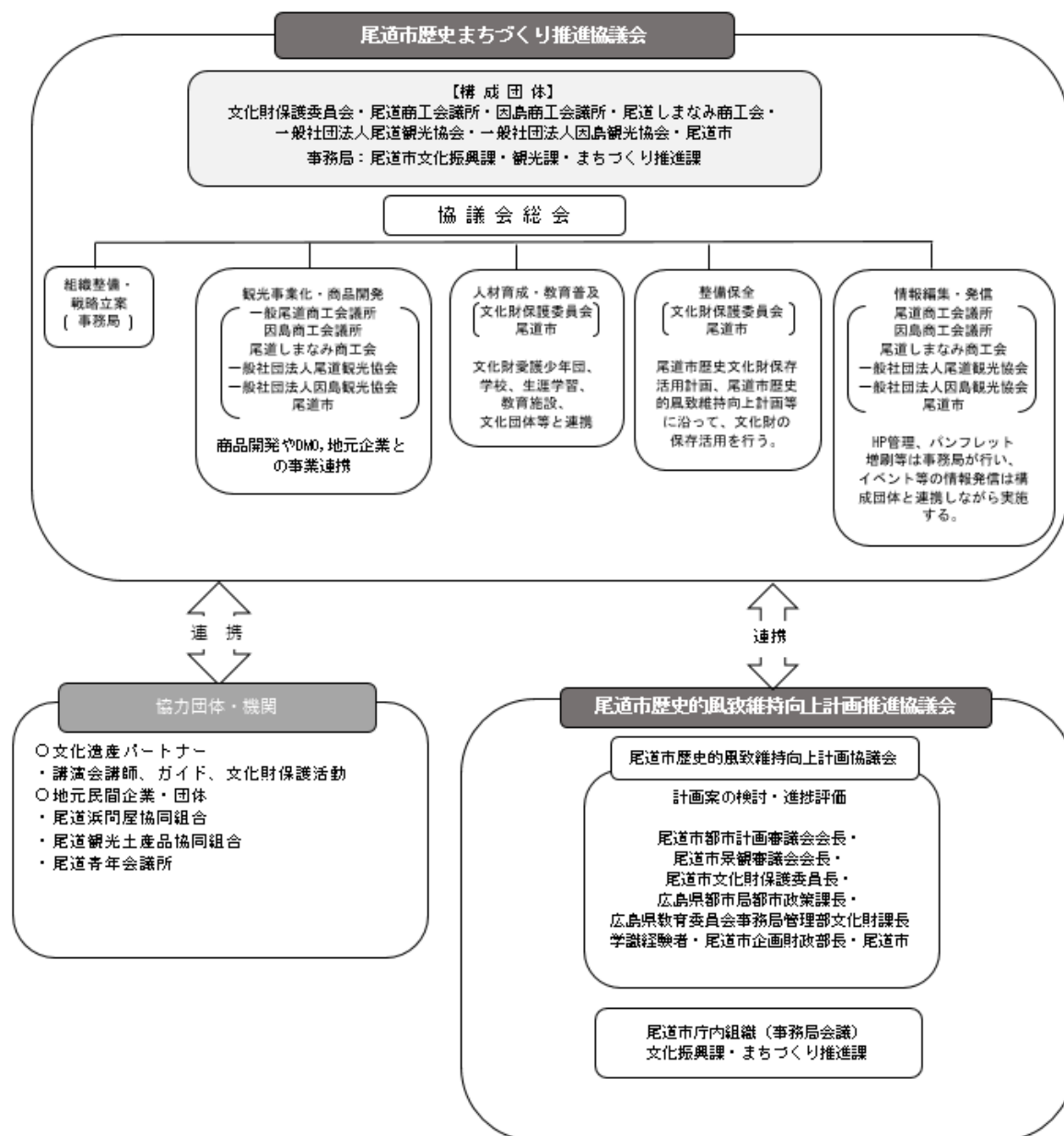
・協議会の名称

尾道市歴史文化まちづくり推進協議会

・構成団体

尾道市文化財保護委員会、尾道商工会議所、因島商工会議所、尾道しまなみ商工会、（一社）尾道観光協会、（一社）因島観光協会、尾道市（文化振興課、観光課、まちづくり推進課）

※DMO しまなみジャパン、NPO 空き家再生プロジェクト、尾道観光土産品協同組合等の民間団体と連携を図りながら、構成文化財の活用や、商品開発・販売促進、イベントを実施している。



[人材育成・確保の方針]

協議会事務局を尾道市が担うことで、着実な事業継続と人材が確保され、その中心となる学芸員等の育成を進め、かつ構成団体内での参画する人材育成・確保を継続的に行っている。この体制を持続させ、かつ、構成団体以外の民間事業者との連携を強化、参画者を増加させ、日本遺産事業に参画する人材確保と育成を継続的に進める。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

協議会は尾道市の負担金によって運営されており、当面は負担金額を維持しながら活動を継続する。

日本遺産の魅力を国内外に情報発信し、構成団体や民間事業者による関連グッズの発売や旅行商品の造成など、「日本遺産」ブランドを活かした、商品開発を支援する。新型コロナウイルス感染症により移動や参加人数に制限がある中で、将来的にはインバウンドにつなげていくが、まずは県内やしまなみ海道沿線、中・四国地域等をターゲットに、身近なモノ、コト、ショク（食）に、全国最多の3つの日本遺産のストーリーを結びつけた、短い時間、少人数で新しい経験や食を楽しむことができるコンテンツを開発する。

日本遺産ブランドを活用して構成団体や民間事業者が収益を上げることにより、協議会への負担金の抛出等、協議会の運営資金の補填を目指す。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

構成文化財には国宝や国の重要文化財が多く含まれており、尾道市歴史文化基本構想・文化財保存活用計画、尾道市歴史的風致維持向上計画に沿って、所有者、国、県等と協議しながら計画的に保存修理や総合防災事業を実施し、文化財の保存継承に取り組んでいる。

更に未指定の文化財や民俗芸能等を活用したイベントやマップの作成を市民団体が実施しており、連携、支援を行っている。

また、文化財について講座等（文化財講座、文化遺産パートナー養成講座、文化財愛護少年団、学校等での授業、文化財巡り）を幅広い世代、市内外に向けて実施することにより、文化財の愛護精神の醸成を図るとともに、七佛巡りやワークショップ、構成文化財巡りや体験を盛り込んだ旅行商品の造成や担い手の育成等につなげる。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	しまなみ DM0 等連携推進事業		
概要	観光地としてのブランドづくり、情報発信、プロモーション、マーケティング等について、しまなみジャパンや尾道市観光土産品協同組合等と連携を強化し、事業を実施し、日本遺産関連事業に参画する事業者を増やす。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産尾道市 HP 等連携強化	日本遺産尾道市公式 HP としまなみジャパン HP の連携を強化し、ストーリーを体験できるメニュー等の周知を行う。	協議会
②	名産品物産販売強化	日本遺産の関連イベント等で尾道観光土産品協同組合等と連携し、情報発信、民間事業者の収益を増やす。	協議会
③	協議会事務局の定例連絡会議の開催	協議会事務局（市文化振興課、観光課、まちづくり推進課）の定期的な連絡会議の場を設定し、効率的な事業運営を進める。	協議会
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	民間事業者（個人を含む）との連携事業数		1
2022			1
2023			2
2024			3
2025			4
2026			5
2027			6
2028			7
2029			8
事業費	2024 年度：300 千円 2025 年度：300 千円 2026 年度：300 千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産関連の各種イベント等で各事業者、関係者との連携、提携を強化し、情報の相互発信や旅行商品、物産販売促進を進める。		
事業費	2027 年度：300 千円 2028 年度：300 千円 2029 年度：300 千円		
継続に向けた事業設計	中長期的に、強化した連携をもとに、協議会以外の団体の参画を増やし、協議会が各事業者の活動の hub となるよう、連携強化に努める。		

(事業番号 1 - B)

事業名	ふるさと納税推進事業		
概要	尾道市のふるさと納税返礼品において、尾道の魅力をもっと楽しむことが出来る返礼品を提供することにより、寄付者の増加につなげる。また、ふるさと納税の HP を通じて、「日本遺産のまち尾道」の魅力を PR する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ふるさと納税返礼品商品開発	ふるさと納税返礼品に、日本遺産に関連する食文化、体験メニュー等を加えるよう、商品開発等を企画調整する。	協議会
②	日本遺産尾道市 HP 等連携強化	日本遺産尾道市公式 HP とふるさと納税サイトの連携を強化し、日本遺産を体験できるメニュー等の周知を行う。	協議会
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	ふるさと納税寄附者数（人）		485
2022			533
2023			集計中
2024			530
2025			540
2026			550
2027			560
2028			570
2029			580
事業費	2024 年度：200 千円 2025 年度：200 千円 2026 年度：200 千円		
継続に向けた事業設計	民間事業者や協議会構成団体と連携し、日本遺産のストーリーに関連する商品開発を進める。		
事業費	2027 年度：200 千円 2028 年度：200 千円 2029 年度：200 千円		
継続に向けた事業設計	ふるさと納税等を活用して、開発商品の販売を促進し、民間事業者が継続的に運用できる体制を構築する。		

(7) - 2 戦略立案			
(事業番号 2 - A)			
事業名	尾道市歴史的風致維持向上計画第 2 期の運用		
概要	令和 3 年度第 2 期計画を策定し、歴史により形成された、中世から現在まで様々な時代の文化財が重なり合う特色と魅力を活かした街づくりを行い、文化財や歴史的風致を活かした観光振興を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	尾道市歴史的風致維持向上推進協議会の開催と事務局内協議	尾道市歴史的風致維持向上計画第 2 期に記載している日本遺産関連事業や文化財関連事業の進捗状況の確認。	尾道市
②	尾道市歴史文化まちづくり推進協議会事務局会議の開催	日本遺産の各種事業を主体的に実施している協議会の事務局会議を開催し、目標と成果について共有する	協議会
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産との関係性を明確化した行政計画の数		3
2022			3
2023			3
2024			4
2025			4
2026			4
2027			4
2028			4
2029			4
事業費	2024 年度：100 千円 2025 年度：100 千円 2026 年度：100 千円		
継続に向けた事業設計	歴史的風致維持向上計画に基づき、定期的に協議会を開催し、情報共有、意見交換を行い、各種事業を実施する。		
事業費	2027 年度：100 千円 2028 年度：100 千円 2029 年度：100 千円		
継続に向けた事業設計	歴史的風致維持向上計画に基づき、定期的に協議会を開催し、情報共有、意見交換を行い、各種事業を実施する。		

(7) - 3 人材育成

(事業番号 3 - A)

事業名	文化遺産パートナー養成事業等		
概要	日本遺産のガイドや調査研究等を積極的に行う文化遺産パートナーを養成する講習会やワークショップを開催し、より効果的な日本遺産の活用と人材育成を図る。講座では歴史だけではなく、SNS を使った情報発信の方法なども取り上げ、文化遺産パートナーによる、積極的な「日本遺産のまち尾道」の情報発信につなげる。 また、尾道観光協会で実施している観光ガイド付きの個人ツアー等で、HP 等からの申請時に、文化遺産パートナー認定者など、ガイドのグレードを可視化し、日本遺産のまち尾道をより深く体験できる仕組みづくりを行うとともに、ガイドの意識向上によるレベルアップを図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	文化遺産パートナー養成講座の開催	日本遺産ストーリーや構成文化財をテーマとした講座、ツアー、ワークショップ等を開催する。	協議会
②	写真撮影と町歩きを合わせたワークショップの開催	SNS での情報発信を目的とした写真撮影等のワークショップを開催し、発信力を強化する。	協議会・尾道観光協会
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	文化遺産パートナー養成講座年間参加者数		60
2022			212
2023			383
2024			300
2025			310
2026			320
2027			330
2028			340
2029			350
事業費	2024 年度：150 千円 2025 年度：150 千円 2026 年度：150 千円		
継続に向けた事業設計	観光ガイドに関わる市民を含め、日本遺産のストーリーを体感する解説ができる人材育成を講座やワークショップ等により進める。		
事業費	2027 年度：150 千円 2028 年度：150 千円 2029 年度：150 千円		

継続に向けた 事業設計	日本遺産尾道市 HP 等で提供しているモデルコースでのガイド養成と、そのモデルコースでのガイド及び商品収益を図る。
------------------------	--

(7) - 4 整備			
(事業番号 4 - A)			
事業名	歴史的風致維持向上事業		
概要	歴史的風致向上計画に基づき、道路美装化事業、まちなみ形成事業補助等を実施し、日本遺産のストーリーを構成している魅力的な街並みと景観の形成と維持を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	文化財保存事業	構成文化財の所有者による文化財保存修理や防災施設整備事業を実施し、その成果見学会や、展覧会を実施し、記録集の作成や配布を行うことにより、市民への普及を図るとともに、コアな歴史ファンの来訪の増加につなげる。	文化財所有者
②	道路美装化事業	構成文化財 坂道と路地の美装化事業を実施し、回遊性を高めるとともに、文化財保存を進める。	尾道市
③	まちなみ形成事業	日本遺産対象エリアの町並みと景観保全のため、空き家再生、歴史的建造物改修等に補助金を支出する。	尾道市
④	日本遺産魅力発信事業	日本遺産の情報発信のため、案内板や説明板の整備を進める。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	観光客入込数（千人）		3,575,568
2022			4,373,823
2023			集計中
2024			4,460,000
2025			4,504,000
2026			4,549,000
2027			4,594,000
2028			4,639,000
2029			4,685,000
事業費	2024 年度：20,000 千円 2025 年度：5,000 千円 2026 年度：5,000 千円		
継続に向けた事業設計	文化財修理や周辺環境整備、道路美装化等、日本遺産の構成文化財を含めた資源の保存活用と日本遺産の情報発信等を一体的に取り組む。		
事業費	2027 年度：5,000 千円 2028 年度：5,000 千円 2029 年度：5,000 千円		
継続に向けた事業設計	中長期的に 10 か年計画が終了する 2029 年度を見据え、将来ビジョンに沿ったまちづくりが行えるよう、着実な事業推進に努める。		

(7) - 5 観光事業化			
(事業番号 5 - A)			
事業名	体験コンテンツ・ストーリー関連商品の企画開発・販売促進		
概要	尾道観光協会や交通事業者と連携し、体験ツアーの企画・運営をサポートし、日本遺産クルーズツアーの商品化を進める。また、各事業者とHP や SNS 等を活用して連携を強化し、協議会を Hub とした事業を推進する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	尾道水道クルーズコンテンツの販売	日本遺産のストーリーを体感できる尾道水道クルーズを販売しており、他の日本遺産との回遊性向上にもつながっている。	(株)瀬戸内クルージング
②	ストーリー関連商品の販売促進	日本遺産のストーリーに関連した商品の開発、販売促進を行い、収益化を図る。	協議会、民間事業者
③	日本遺産尾道市 HP でのコンテンツ情報発信	日本遺産尾道市 HP でモデルコースや関連商品の情報発信を行い、各事業者の連携を強化する。	協議会
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産尾道市 HP ページビュー数		11,497
2022			18,350
2023			20,545
2024			21,000
2025			21,500
2026			22,000
2027			22,500
2028			23,000
2029			23,500
事業費	2024 年度：250 千円 2025 年度：250 千円 2026 年度：250 千円		
継続に向けた事業設計	商品開発等での事業収益を情報発信に係る費用等に反映させ、持続的な事業実施を推進する。		
事業費	2027 年度：250 千円 2028 年度：250 千円 2029 年度：250 千円		
継続に向けた事業設計	中長期的に商品開発、ツアー実施により民間事業者の収益増加が図られ、持続的な事業実施が可能となる。		

(7) - 6 普及啓発			
(事業番号 6 - A)			
事業名	日本遺産講座、日本遺産めぐり、日本遺産のまち尾道展覧会等の開催		
概要	「日本遺産のまち尾道」展の開催や講座、日本遺産めぐりを開催することにより、ストーリーや構成文化財の魅力を広く国内に紹介・周知するとともに、尾道観光協会、因島観光協会、DMO しまなみジャパン等と連携し、個人向けツアー等の体験型商品の磨き上げ、更には商品点数の増加につなげる。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産講座の開催	日本遺産のストーリーや構成文化財に関する講演会等を開催する。	協議会、尾道市
②	日本遺産めぐりワークショップ等の開催	日本遺産のストーリーや構成文化財に関する体験ツアー等を開催する。	協議会、観光事業者
③	日本遺産関連展示会の開催	日本遺産のストーリーや構成文化財に関する展示会を構成文化財のおのみち歴史博物館や旧三井住友銀行尾道支店等で開催する。	協議会、尾道市
④	日本遺産に関する出前講座の開催	日本遺産のストーリーや構成文化財に関する小中学生、高校生、大学生、公民館、各種団体等への出前講座を開催する。	協議会、尾道市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産認知度 (%)		未集計
2022			63
2023			68
2024			70
2025			71
2026			72
2027			73
2028			74
2029			75
事業費	2024 年度：200 千円 2025 年度：200 千円 2026 年度：200 千円		
継続に向けた事業設計	普及啓発事業は、認定初年度から積極的に実施し、人材育成と連携させており、この事業実施システムを持続させる。		
事業費	2027 年度：200 千円 2028 年度：200 千円 2029 年度：200 千円		
継続に向けた事業設計	中長期的に、観光事業者等と連携し、ワークショップ等から派生したツアー商品造成等、観光事業化ともあわせて実施する。		

(7) - 7 情報編集・発信			
(事業番号 7-A)			
事業名	総合的情報発信事業		
概要	総合パンフレット、HP、SNS 等の内容を更新、増刷、維持管理しながら、ターゲットごとに異なる媒体（高齢者は紙媒体、若年層は SNS 等）によって、「日本遺産のまち尾道」の魅力を発信する。 ノベルティの配布や物販、ワークショップを行うことにより「日本遺産のまち尾道」の魅力にモノ、コト、ショク（食）を付加し、来訪者の増加を促進する。更に、訪問者が SNS 等で尾道の魅力を発信し、さらなる情報発信につながる仕掛けづくりを行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	総合パンフレット増刷、配布	日本遺産総合パンフレット等を必要に応じて増刷し、ビジターセンターや関連イベント等での配布を行う。	協議会
②	HP、SNS 等維持管理	日本遺産尾道市 HP、SNS 等の維持管理を行い、日々情報を更新して、日本遺産の魅力を情報発信する。	協議会
③	関連イベント出展事業	日本遺産フェスティバルやツーリズムエキスポ等イベントへ出展を行い、日本遺産尾道市の情報を発信する。	協議会・民間事業者
④	ビジターセンター情報発信事業	市内 6 か所のビジターセンターでの日本遺産 PR 映像放映やパンフレット等配布により、情報を発信する。	協議会・尾道市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	HP ユーザー数、 SNS (Facebook, X (旧 Twitter), Instagram) フォロワー数		7,257
2022			8,929
2023			7,240 (12 月末)
2024			8,000
2025			8,100
2026			8,200
2027			8,300
2028			8,400
2029			8,500
事業費	2024 年度：500 千円 2025 年度：500 千円 2026 年度：500 千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産尾道市の情報を継続的に発信する方法として、HP、SNS、パンフレット等で継続的に実施する。		
事業費	2027 年度：500 千円 2028 年度：500 千円 2029 年度：500 千円		

継続に向けた 事業設計	Web と紙媒体の維持管理費を継続的に確保し、着実な事業推進を行う。
------------------------	---